

小林吟右衛門(2代)

こばやしぎんえもん
伊能測量始・1800 =

近世後期を代表する豪商で、開港による危機も克服した。

彦根藩領の近江国愛知郡小田苧村で、上層農民の出身で貸し付けしながら麻布の行商等で財を築いた初代小林吟右衛門の兄小林源左衛門の三男に生まれる。幼名亀吉。

いざり来航・1804 = 4歳：この年、初代が分家。

いざり報復・1806 = 6歳：初代の養子となる。

浮世風呂・・・1809 = **9歳**：

3日ごとに発病する胃病持ちだった養父をマッサージするなど、孝養を尽くしながら、懇願して、

黒住教・・・1814 = 14歳：ようやく、東海道行商への同行を許され、

以後、その範囲を拡大、

水野忠成老中1818 = **18歳**：

群書類従完結1819 = 19歳：***店卸帳の記入を任せられ、営業の第一線に立つと、**

委託販売と新しい市場の開拓に取り組み、農村の人々の生活向上欲求とも合致して、収入も増大、

・・・1826 = 26歳：この年、初代が隠居し、小田苧村の庄屋に戻る。

日本外史・・・1827 = **27歳**：

富嶽三十六景1831 = 31歳：***約1万両の元手金をもって、江戸日本橋に、初めて出店を開設し、呉服商・木綿問屋・糸問屋・繰綿問屋・小間物問屋・両替商を営む。**

・・・1836 = **36歳**：**藩に千両献金して、十五人扶持を与えられて以来、**

大塩平八郎乱1837 = 37歳：

藩の公金を預かったり、調達金に応じたりして、関係が深まり、

天保改革弾圧1842 = 42歳：***京都六角柳馬場に京店を開いて、呉服太物・生糸・生絹・紅花・染物・為替を扱い、京坂の購買力・技術力・情報収集力をいかして、江戸店と有機的な連携を図り、**

阿部正弘首座1845 = **45歳**：

万次郎帰国・1852 = 52歳：この年から、故郷の小田苧村に、毎年、米30俵を寄付、

ペリー来航・1853 = 53歳：

開国開港・・・1854 = **54歳**：この年、初代が死去。

情報網をいかし、開港された横浜で、外国人商人へ生糸の売り込みや、商品化した国内の古金銀貨幣の売買などで、

五ヶ国条約・1858 = 58歳：**八十人扶持に加給され、**

安政の大獄・1859 = 59歳：**翌年にかけて、純資産を6万両も増加させるが、**

桜田門外変・1860 = 60歳：**桜田門外の変に衝撃を受け、**

遣欧使節・・・1861 = 61歳：**相場変動の最も大きい大坂に両替商を開いた直後、多額の取引をしていた京都の両替商が突然倒産して、それまで築いてきたものが水泡に帰すも、取り付け騒ぎに対処すべく陣頭指揮、大坂店を閉鎖するなどして処理に成功、かえって豪商の名を高める。**

8月18日政変 1863 = **63歳**：***この年には、藩への貸し付けが2万両あまりになり、以後、三都で貧民に米や銭を施す慈善行為に努めて、**

没した。

没年不明。